

2020 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 4

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、初級を終了したレベルの学生を対象とし、初中級レベルの文章の読解、関連する内容について話したり書いたりできるようになること、活動の中で他者の考えを知り理解を深めることを目標としている。1 週間に 3 コマ開講されており、通常の学期は『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）、『中級を学ぼう中級中期』（スリーエーネットワーク）の 2 冊の教科書をそれぞれ 5 課ずつ使用している。しかし、2020 年度春学期はスケジュールの都合上、それぞれ 4 課、合計 8 課使用した。毎回、Zoom を使った同時双方型オンライン授業で実施された。各クラス 2～3 名の少人数クラスであった。

2. 授業内容

毎課、1) 本文理解、2) 本文内容に関する話し合い活動、3) 文法・表現、という流れで実施した。今年度から話し合い活動後に、「まとめレポート」を書かせることとした。話し合い内容について活動後に振り返り、教師からのフィードバックを得る機会とするためである。また、オンライン授業に伴い、クイズ・試験の実施、課題の提出・管理などは全て LMS（LUNA）で行うこととした。クイズは他のツールを使うことも検討されたが、学生・教員双方にとって同じシステム内で全て管理されているほうが混乱が少ないと考えた。実際に学生からの問い合わせや混乱はほとんどなく、課題のフィードバックをオンライン上で行うことや、提出課題が一括で管理されていることから、紙で配布していたときによく起こった紛失や教師の配布忘れなどの心配がなくなった。そのため、教師は教えること、学生は学ぶことに集中することができた。

3. 成果と今後の課題

学生からの評価は概ね良好だったが、オンライン授業による課題も見えた。まず、作文のピア活動のやり方には課題があった。授業内でクラスメートの作文を読み合ってコメントをさせたが、あまり効果的な活動にはならなかった。事前にお互いの作文を読んでコメントを考えておくなど、授業時間を有効に使うことができると考えられる。加えて、文法・表現の指導にも課題が残った。事前学習とうまく組み合わせ、授業時間に教師が講義を行うのではない方法を探る必要がある。これと関連して、クイズ・定期試験の内容ややり方についても学習効果を考え、内容によってはオンラインで取り組める課題とするなど、再考の余地がある。